２０２５年９月１日
ＥＩＮ　エネルギー情報ネットワーク

ＬＰガスＣＰ速報（２０２５年９月積）

１．９月積みサウジアラムコＬＰガスＣＰ
プロパン５２０㌦（前月比±０㌦）
ブタン　４９０㌦（前月比±０㌦）

① ＬＰガススポット市況等

ＬＰガスは不需要期、極東は猛暑で家庭業務用需要低迷も石化需要は堅調、第４週ＣＦＲ極東着がプロパン 530 ㌦、ブタン 540 ㌦（前週比＋10 ㌦）、ＦＯＢ市場はフレートが上昇するなか、横ばいで推移した。中国ＰＤＨ稼働率は 5 月の 55%から直近で 70%超まで回復、ブタン需要は、米国産ブタン高で、中東ブタン付きカーゴの引き合いが増加、ただ、ナフサ安でブタンの価格競争力が落ちてきた。

米国市場をみると、不需要期を迎えても、需要は堅調、輸出は回復傾向（グラフ③参照）。中国向け関税引き下げ措置は 90 日間延長され 6 月を底に増加も、中国輸入の 2 割程度に留まり中東シフトが続いている。天然ガス増産で供給は潤沢、全米プロパン在庫は積み上げが進み、在庫水準は 5 年平均レンジの最上位まで上昇した。モンベルビュープロパンスポット価格は、第 1 週 363 ㌦でスタートしたが、原油市況とともに軟化、月間平均では前月比 21 ㌦続落の 347 ㌦／㌧どころ（グラフ①参照）。

フレート市況は堅調に推移した。北米／極東の価格差が双方の市況に影響、パナマ運河の混雑でオークション落札額が上昇し、喜望峰経由の選択もあり、米国～極東は第 2 週には 150 ㌦まで上昇、中東市場も米国市況に引きずられ上昇、第 2 週以降 90 ㌦で推移した。インドネシア国営会社の公開入札で 80 ㌦台半ばまで軟化、インド勢の傭船需要と北米の 9 月傭船需要がどの程度あるのか注目が集まっている。

ナフサ市況は続落、月間平均は前月比 2 ㌦下落の 581 ㌦／㌧どころ。原油市況が軟化、石化需要は回復傾向も、ブタンと競合、中国石化需要の動向に左右される。

バンカーオイルをみると、原油市況の軟化を受け下落した。シンガポールＩＦＯ380 は続落、月間平均で前月比 5 ㌦下落の 415 ㌦どころ、ＬＳＭＧＯ（低硫黄マリンガスオイル）は３か月振りの反落、前月比 27 ㌦下げの 659 ㌦どころ、世界的な留出油の低在庫で高騰したガスオイルも下げに転じＣ重油との格差は 245 ㌦に縮小した。

９月ＣＰは前年同月比プロパン 85 ㌦、同ブタン 105 ㌦の下落。原油（アラビアン・ライト）熱量等価換算（下記参照）では、前月に比べプロパン、ブタンともに１ポイント上昇、前年同月比ではプロパン 4 ポイント、ブタン 8 ポイント低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート（中東―日本）	80	90	90	90	87.5
ＣＰ先物指標：Ｐ	520	520	520	520	520
ＣＰ先物指標：Ｂ	500	495	495	495	496

② 原油市況等

８月の原油市況は、ＷＴＩ 62～67 ㌦の狭いレンジ相場で推移した。トランプ、プーチン会談でロシア・ウクライナ平和合意への期待が高まったが、その後も戦闘は続き、地政学リスクプレミアムは変わらず。トランプ関税を巡る貿易交渉は、対インド 50%関税が賦課され、ロシア原油の輸入も継続されている。ロシア原油供給の制裁緩和は遠のいたが、ＯＰＥＣプラスの増産政策、世界経済の減速懸念で供給超過の見通し、米国はレイバーデイの連休を迎え、ガソリンシーズンは終了する。金融市場では、利下げ観測から株価が上昇、最高値を更新するなどリスクオンでバブル加熱の様相を呈しているが、原油先物市場では、夏枯れの薄商いの中、アルゴリズム取引を行う商品投資顧問業者がロングポジションを手仕舞、ショートへポジションへチェンジ、決め手を欠く展開となっている。

○８月積みアラビアン・ライト（8 月 1～29 日までの想定）は 71.53 ㌦（前月比－0.70 ㌦）
熱量等価ＡＬ100%　プロパン 586.47 ㌦／㌧　ブタン 578.43 ㌦／㌧
ＡＬ比　プロパン 88.67%　ブタン 84.71%

＊上記ＡＬはＥＩＮ推計、確定値は後日Ｗｅｂサイトでご確認ください。

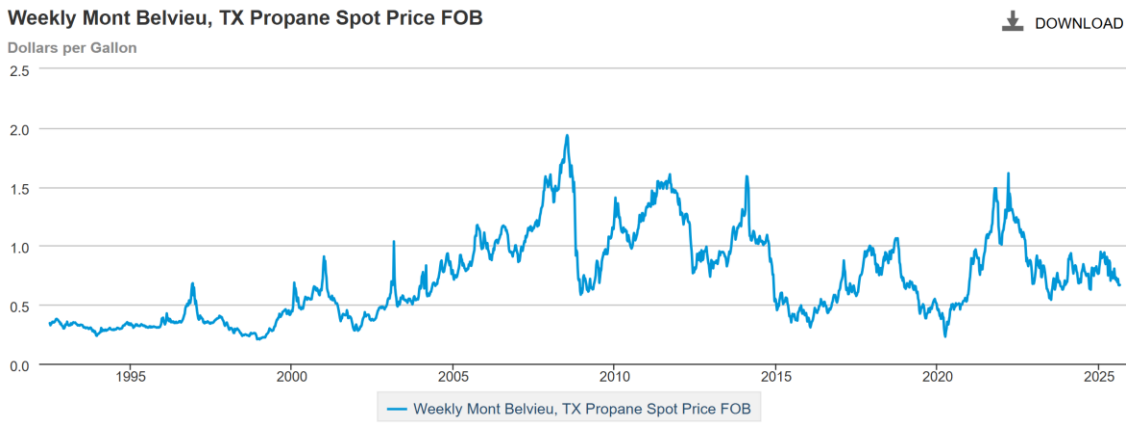
２．２０２５年９月ＬＰガス仕切（**ＣＰ・ＭＢコスト変動分**）への影響

適用為替	ＴＴＳ	Ｐ円建ＣＦＲ	Ｂ円建ＣＦＲ	Ｐ前月比	Ｂ前月比
８月月間	148. 71	84, 900	82, 700	－3, 300	－3, 600

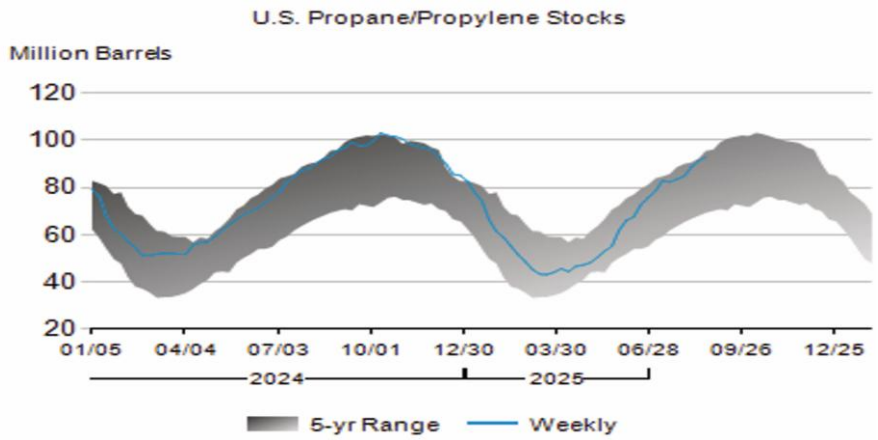
＊ＴＴＳ平均等について、上記は８月 1～31 日までのＴＴＳ平均。ＣＰは前月・当月 50％案分。プロパンのＭＢ合成比率はＣＰ70％、ＭＢ30％で算定。ＣＦＲコストは中東・北米フレートを含むＣＦＲコストを表示。ＣＦＲコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記ＭＢは８月 28 日までの価格を基にＥＩＮで試算（347 ﾄﾞﾙ/ﾄﾝ）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はＷｅｂサイトを参照。

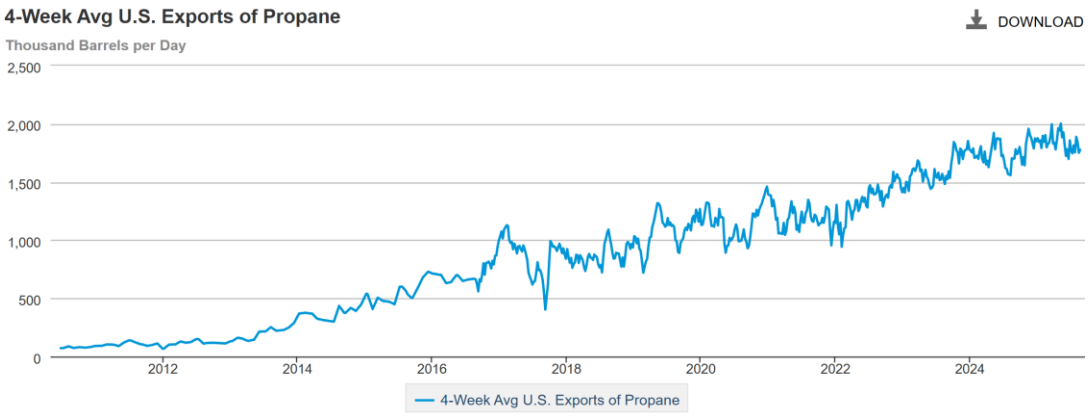
① 米国プロパンスポット価格推移



② 米プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出量推移



出典：EIA